



発行人 福島県教職員組合
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
〔定価一部 20円〕
編集・責任者 瀬戸 禎子
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
http://www.f-t-u.or.jp
(この購読料は組合費に含まれています。)

共済わくわくキャンペーン

実施中!!

ご応募は
こちらから⇒

教職員共済

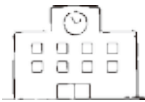
新年度のスタート 働きやすい職場をめざして!



2023年度がスタートしました。今年度は、始業式・入学式まで3日間しか準備期間がなく、異動されたみなさんは、大変だったことと思います。そもそも、福島県はなぜ4月6日に入学式なのでしょう。「福島県あるある」を変えていくのも県教組として考えていきたい内容です。

さて、次年度からは、定年延長の教職員が同僚となるわけですが、様々な年代の様々な勤務形態の教職員だれもが、働きやすい職場環境となることが一番大切です。今回は、職場で取り組める内容を集めてみました。

☆家庭訪問は、自宅確認で!



子どもたちの家庭での様子を知るために毎年実施されている家庭訪問。新型コロナウイルス感染防止から、通学路確認や自宅確認に変更している学校が多いのではないのでしょうか。保護者にとっても担任にとっても、負担になっている家庭訪問。目的を見直し、安全面からの「確認」で進めてみましょう。

☆設定された部活動休養日や 部活動練習時間の上限を徹底させましょう!

中学校の部活動では、平日週1日及び土日のどちらかを休養日にすることが「多忙化解消アクションプランⅡ」での重点取組になっています。さらに、練習時間の上限は、平日2時間、休業日は3時間となっています。担当職員の負担だけでなく、子どもたちの健康のためにも休養は大切です。学校全体で取り組めるといいですね。

☆学期末事務整理日、設定してますか?

学期末の成績処理や通知票の記入など、勤務時間内に終了させることは難しいですね。秋闘キャラバンで各支部の学校を回ってお話を聞くと、学期末事務整理日を設けているところが増えています。特に小学校は、多くの学校で設定していると感じました。中学校でも、事務整理日を設定している学校があります。

子どもたちの下校時刻を繰り上げて、集中して仕事ができる時間を確保することは、多忙化解消に向けた第一歩です。年度初めの見直しをもつこの時期だからこそ、職員会議で話題にして、1学期から学期末事務整理日を設定しましょう。



☆小学校の運動会は、午前中で終了!

県教委から発出されている、「教職員多忙化解消アクションプランⅡ」の事例集にも掲載されているように、小学校の運動会を午前中で終われるようなプログラム編成にしている学校が増えています。新型コロナウイルス感染症の影響もあって進んだようです。しかし、コロナ禍が治まってくると元に戻して一日行事とする学校もあるようです。

県教委交渉の中で、義務教育課からも「コロナ禍で行事の在り方を見直して、良かった事は続けてほしい。」という回答がありました。子どもや保護者の負担、私たちの業務の見直しという観点からも、「運動会は午前中で終わらしましょう。」と声を上げていきましょう。





「春闘」って何？

→「私たちの働き方について声をあげる場」です。

4月1日から「子育て休暇」が「満18歳に達した後の3月31日までの子ども」まで取得できるよう拡大されました！さらに、昨年の12月のボーナスも少し増えました！昨年度の秋の交渉でさらに賃金や休暇制度がよりよくなっています。

さて、2月頃になるとテレビ等でよく聞く「春闘」ですが、私たち教育職場で働く労働者には、あまりなじみがありませんよね。多くの企業にとって新年度となる4月に向けて、労働組合が賃金や一時金(ボーナス)の改善、ワークライフバランス実現に向けた労働時間短縮について要求し、使用者(経営者)と交渉し、決定することをいいます。大手企業を中心に、労働組合が企業に要求を提出するのが2月、企業からの回答が3月頃であることから、「春闘」と呼ばれています。

では、私たち公務員はどうなるのでしょうか。実は、公務員の労働組合でも、それぞれが当局(県教組は県教委)に対して要求書を提出し、春闘の交渉をしています。今年度は、4月26日に県教委との交渉を実施します。学校の実情を踏まえ、以下のような様々な要求事項と改善策を訴えてきます。

教職員の働き方改革

- ・「多忙化解消アクションプランⅡ」の実効化
- ・業務量を減らすことでの長時間労働解消
- ・休日の部活動の地域移行の見通しと予算確保
- ・教員免許更新制に代わる「対話に基づく受講奨励」は人事評価制度と切り離すこと、さらなる研修の負担軽減



再任用と定年引上げ

- ・再任用制度の賃金、労働条件の改善、確実な任用と手続きの簡略化
- ・再任用での業務量や異動の負担軽減
- ・定年前再任用短時間勤務の職務内容の明確化

教職員の人員・採用増

- ・代替・補充者配置のための予算措置と完全配置、配置できなかった場合の具体的な負担軽減措置
- ・スクール・サポート・スタッフの全校配置
- ・事務職員、栄養職員の賃金改善と受験年齢の引上げ
- ・産休・育休の代替教員の先行加配の実施
- ・臨時的任用職員・任期付職員・会計年度任用職員の勤務労働条件の改善

休暇制度

- ・子育て休暇の日数拡大
- ・家族を対象とした家族看護休暇の新設
- ・出生サポート休暇(不妊治療のための休暇)の拡大
- ・看護・介護を長期間行い、復職が補償される休暇制度の新設



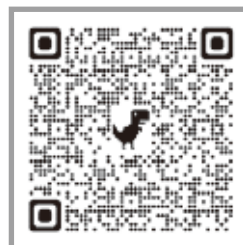
お願いです！学校の状況を教えてください!!

先日、「本来2学級にするべき子どもの人数なのに、4月から臨時的任用の先生が見つからず、1学級にするしかなくて困っています。」とのお声が県教組に寄せられました。

福島県が他県よりも教育に力を入れて行ってきた30人・30人程度の少人数学級が成立しなくなってきています…。この大変な学校の状況を県や各市町村教育委員会に訴え、さらなる改善を求めています。そのためには各学校の組合員さんのご協力が必要です。

教職員が不足している状況についてアンケートをGoogleフォームで行います。(右の2次元コードをお読み取りください)

県教組のHPからも回答できます。個人情報等は厳守しますので、今の学校の状況を教えてください！どうぞよろしく願いいたします。



〈放射線教育対策委員会報告〉震災・原発災害の教訓を語り継いでいくために…

「東日本大震災・原子力災害伝承館」の活用を考える(後編)

4月10日の福島民報1面に「持続可能な伝承模索」との見出しで、震災・原発災害の記憶と教訓を子どもたちに伝える取り組みが掲載されました。震災・原発災害から12年。教訓の伝承は重要な課題です。その中で、中心的な役割を果たすと見られているのが「東日本大震災・原子力災害伝承館」です。

2月の教育新聞で、「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学する際の課題をいくつか挙げました。今回は、その課題への対応策について挙げていきたいと思ひます。



課題① 展示内容が難しい。大人向けの説明である。見飽きてしまう。

バスに乗っての校外学習、ただでさえ遊び気分になりがちです。伝承館での学習を効果的なものにするには、事前の学習が不可欠です。東日本大震災、そして原発災害はどのようなものだったのかを説明し、伝承館見学に向けての意識を高めましょう。震災当時の映像を視聴・ダウンロードできるサイトの活用も有効ですが、恐怖を感じる子どももいるので配慮が必要です。

課題② 展示のボリュームが大きい。しっかり見ようとすると、1時間では見きれない。

伝承館の展示は導入シアターも含めて6つのブースに分かれています。知りたいことを個人テーマ等にし、どのブースを中心にみるか予め見当をつけておくとうい思ひます。ブースは伝承館ホームページで紹介されています。

課題③ 原発災害後の困難を表す展示が少ない。特に証言映像は前向きな内容が多く、本当に厳しい状況に置かれた人からの証言は無い。

一番身近な震災の語り部は保護者です。今の保護者は、避難や放射線対策で苦勞した経験がある方が多いはず。保護者へのインタビューを事前学習の中に入れてみましょう。余裕があれば、地域の生産者の方などに原発災害後の苦勞を聞く等の活動も考えられます。

課題④ 安全と復興の色が濃く、現在も残されている課題を捉えにくい。

伝承館の周囲にも、震災・原発災害の影響を感じられるところがたくさんあります。例えば、展望台から海を見ると新しく作られた防波堤の高さを感じますし、周囲を見ると建物や農地がほとんど無く、津波の影響や復興がまだまだ道半ばであることを感じられます。もし、放射線計があれば持って行きましょう。伝承館周辺の放射線量は低いですが、道中には線量が高いところがあり、12年経っても放射線の影響が残っていることが分かります。(常磐道にも数カ所モニタリングポストがあります)



県教組放射線教育対策委員会では、「伝承館見学事前学習の指導案」と「ワークシート案」を作成しています。

福島県教組ホームページで公開していますので、アクセスしてみてください。
(県教組本棚→放射線副読本の解説書籍の中にあります。)



伝承館周辺の様子。活用されている土地は少ない。

は学校でか! Monster



みんなのひろば ~ITOって?~



『ito(イト)』とは、配られた互いのカードの数字を予想しあって遊ぶ、協力型カードゲームです。箱のなかにお題カード、数字カードがそれぞれ入っており、自分の手札の数字を他の人にばれないようにお題の内容に合わせ表現するゲームです。



先日行われた青年部の交流会にて、こちらのゲームを青年部長である遠藤聖典さんよりご紹介いただき、みなさんで遊んだところ大盛り上がり!とても楽しい時間を過ごすことができました♪

新年度の学級レクなどにもぴったりのテーブルゲームなのでみなさんも是非一度遊んでみてくださいね。

みんなのひろば原稿募集!

このコーナーは、組合員のみなさまから、ほっこりしたり、感動したり、ためになったりするような素敵な情報をお待ちしております(*^▽^*)たとえば…

- ・私の一押し本や映画の紹介
- ・ぜひとも教えたい地元のディープなスポット
- ・なんでも自慢!「孫自慢」「わが子自慢」「ペット自慢」「俳句」「短歌」「川柳」「絵手紙」「絵画」「ダジャレ」などなど!

★メールやFAX(0120-17-9312)、LINE公式アカウントでお寄せください。



あんしん むすぶ 教職員共済

<https://www.kyousyokuin.or.jp/>

教職員共済
だけが実現!

教職員のための共済だから!
いずれのコースでも
「公務中の事故」は
等級ダウンなし!
補償充実コースで6等級以上なら
さらに!「通勤中の事故」も
等級ダウンなし!
※詳しい条件等についてはお問い合わせください。



お問い合わせ・資料請求は
下記までお気軽にどうぞ!

教職員共済生活協同組合
福島県事務所
TEL:024-523-3011



WEBからコンテンツ資料請求

自動車共済

※ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください、制度内容をご確認ください。

「処理水を海に流すな!」原発のない福島を!県民大集会 開催

3月19日、福島市のパルセいいざかにおいて、「2023 原発のない福島を!県民大集会」が開催されました。県内外から約900人が結集し、今年の春に迫っている、「ALPS処理水海洋放出」の計画見直しを求めることを訴える集会となりました。

集会の中では、福島からの発信ということで飯舘村の菅野哲さん、二本松の菅野正寿さんから、原発事故から12年間、農業に従事する傍ら復興に力を注いできた活動の経緯や思いが熱く語られました。



また、若者でつくる市民集団DAPPEの七海さんや、第24代高校生平和大使から、活動報告に加え今後の決意などが、若者の視点で会場に訴えていました。県教組松下書記長が総合司会を務めました。サイレントアピール行動では、会場の参加者の気持ちを代弁して「処理水を海に流すな!」とコールしました。

